

出会ってめいしん 育ててめいしん

— 未来を担う人を育て、まちを育てる —

明新公民館

1 地区の概要



福井市の北部、九頭竜川の南側に、芦原街道をはさみ、東西に広がる地区である。古来より九頭竜川を利用した漁業や農業

を生業とし、古い歴史を有する地区と近年住宅地として著しく発展してきた地区で構成され、舟橋新・灯明寺・新田塚・二の宮の四地区から成り立っている。現在は、約16,000名が居住し、人口では市最大の地区である。昭和46年に明新小学校が開校し、その通学区域が明新地区となった。「明新」の名は、中国の古典「大學」にある「明德を明らかにし、民を新たにす」と、松平春嶽公の明新館記の中の「夫れ明新の義たる大なり」から名づけられた。

公民館は、昭和50年に開設され、平成19年に現在の地に新築された。平成7年に「出会ってめいしん 育ててめいしん」のキャッチフレーズができ、平成11年に明新の頭文字「M」を図案化したシンボルマークが公募によりできた。

2 公民館の特色ある取組み

(1) 若い世代の学びへの意欲

明新地区の子どもたちは、小学校卒業後に4つの中学校に分かれる。このため、地域の青年活動はなかなか成り立たないのが現状であった。

平成27年度に、「公民館を拠点として地域と関わりながら活動したい」「進路の違いで離れてしまう仲間と共に活動し、新たな仲間作りもしていきたい」という若者の声を反映して、2つの異なる世代の青年グループが立ちあがった。各グループの企画・運営はメンバーが行い、あくまで自主的な学習活動を促している。さらに、活動報告などを広報紙やSNSで積極的に地域に発信することで、新たな人材発掘も進めている。

活動は青年グループのメンバーだけではなく、地区民にも参加を呼びかけている。地域に応援され、認められていると思うことが、若者たちの自信に繋がると考え、参加した先輩方には、青年たちを温かい目で見

守ってほしいとお願いしている。また、学習活動の講師も若い世代が多い。若者が若者を盛り上げ、応援することが大事であると考えている。

◎「おとなのがっこう」は、学びのワンダーランドをテーマに、毎回様々な講師を招いて、生活に役立つ情報やちょっと視野の広がる話とともに、参加者同士の交流と学びの場を作りたいと青年グループが発案した。時には、お茶とお菓子で和やかな雰囲気の中で、たまには場所を変えながら、シンポジウムやゼミ形式で行っている。

◎「明新夢マップ作り」は、地区内の魅力を再発見し、地区民に紹介する意図で、青年グループが企画して進めている。内容は、ウォーキングアバウトにより、気になったものを写真に撮る。参加者同士で写真を見せ合う中で知らなかった店やお勧めの公園、好きな場所等をマップに張り付けていく。祭りなどで、地域の人たちにも呼びかけ、お勧めのスポットを書きこんでもらいながら、マップの充実を図っている。「住んでいるまちで暮らしを楽しむためのなにか」探しのマップになればと考えている。



【明新夢マップ】



【マップ作り作業】

(2) 「子育てしやすいまちづくり」を目指して

「家庭教育・子育て支援事業」として幼児から小中学生の母親を対象とした「ポシェット」と、乳幼児の親子を対象とした「ころころくらぶ」の2グループの活動を中心に行っている。

◎「ポシェット」は、家庭で抱える悩みや問題の共有・解決、また自己研鑽や仲間作りを目指して、母親たちが自主的に企画・運営を行っている。10名の運営スタッフを中心に計画を立て、募集チラシを作成し、地区

内の小学校・幼稚園に配布している。未就園児の託児もあり「安心できる」ことを広く呼びかけている。母親たちの学びの講座の他、地区民も参加できる公開講座、親子のふれあい事業、文化祭での模擬店出



【キャラ弁作りと作品】

◎「ころころくらぶ」は、「親子が気軽に集える場が欲しい」という1人の母親の声から、乳幼児の親子が集う情報交換・交流の場として始まり、現在は毎年50名程の登録がある。人気の親子体操やベビ



【親子体操】

ョガでは、30組近い参加者で会場がいっぱいになるほどである。企画・運営は子育て支援委員会を中心に、保健衛生推進員、児童館子育てひろばが連携して行っている。

赤ちゃん訪問の際に配る募集チラシや参加者の口コミ、携帯のメールアドレス登録による情報発信の充実により、地区外も含めた参加者は、着実に増加している。

イベント開催の他にも、自由遊びのための公民館和室開放、児童館子育てひろばの充実、子育て支援委員や保健衛生推進員による託児や母親の話し相手など、各団体が連携し子育て支援事業を展開している。地区には転勤族が多く、核家族化で孤立しがちな母親たちにとって重要な役割を担っている。

3 公民館と地区の連携事業

—歴史と文化の地域交流—

「太平記」にも記されている、新田義貞の戦没地「燈明寺畷」（現新田塚）の史実を生かしたまちづくりのために、生誕地の群馬県太田市新田地区との

「歴史と文化の地域交流会」を平成16年より毎年開催している。明新地区と太田市新田地区の児童の交流を主にした内容で、両地を交互に訪れている。

平成27年度は、明新地区の児童約30名と「明新まちづくり委員会」のメンバーが太田市を訪れ、当地の



【太田市「新田義貞像」前で】

児童と一緒に、太田市の歴史や文化の学習、交流会等を行った。参加児童からは「新田義貞のことや群馬県のことがよくわかった」「太田市の子とたくさんふれあうことができた」等の言葉が聞かれた。

貴重で思い出深い経験であったことが伺える。この経験が、参加者の郷土に対する愛着とまちづくりの意欲を育むことに繋がっていくと期待している。

公民館は、企画段階から準備に関わり、交流会当日にも職員1名以上が参加することで、事業に尽力している。今後は歴史だけでなく他の分野を含めた市レベルの交流に発展させていきたいと考えている。

4 終わりに

明新公民館の特色は、「人材育成」であると思う。「青年グループ」も「ポシェット」もそうだが、「健康長寿学習明新大学」もメンバー自身が企画・準備・運営を行い、学習活動を展開している。実際に学習会の企画を経験したメンバーは、別の所属グループでもその経験を生かすことができる。老若男女を問わず、公民館でやってきたこと、経験して得た自信がさらに広がっていくことを願っている。

「出会ってめいしん 育ててめいしん」のもと、地区内外を問わず、明新地区で集う人との出会いを大切に、人と繋がり、自分を育て、地域で子どもを育て、そして地域（まち）を育てるために、公民館としての役割をさらに推進していきたい。

「人材育成」を公民館の使命と捉え、様々な場面で、実践してきていることが、着実に成果をあげ、参加者の自主的な企画・運営につなげていること、そしてそれが、次々と受け継がれ、広がっていていることが素晴らしいと思います。